

第50回「議員と語ろかい」報告書

自治会公募型 (No.1)

開催日	令和7年8月5日(火曜日) 10時00分 ~ 11時30分		
開催場所	下有川公民館		
団体名	下有川切門自治公民館	参加 人員	12人 (男 7人:女 5人)
出席議員	野村 和人、前田 幸一、山口 仁美、鈴木 てるみ、徳田 修和、阿多 己清、木野田 誠 池田 綱雄、前川原正人		
役割分担	班長(野村 和人)、副班長(前田 幸一)、記録係(山口 仁美)		
テーマ及び 具体的な内容	1. 町内過疎地について 2. 婦人会について 他 3. 過疎地域への支援計画案(老人、子供へ) 4. ジェンダーレスといわれる現在の「婦人会」について 5. 鹿児島空港がある町への市としての活動について 溝辺町における自治公民館活動全般 6. 現状認識 7. 今後取り組むべき課題/方向性		

意見 交換 での 主 な 意 見 等	◆は参加者の発言 ◇は議員の発言
	＜婦人会について＞ 公民館の中に「婦人部」がある。9名で活動中。少ない人数で話し合いをしてきた。存在意義について話している。以前は、食事や踊りを準備して敬老会をしていた。昔は農家も多かったのでできたが、現在は集まるのも難しい。合併後は、溝辺が後回しになっていると感じている。過疎地域についてはどういう支援があるのか。 ◆他地域では婦人部をどうしているのか。また、婦人部という名前はどうか。 ◇玉利地区。「女性部」があり4人担当。省力化するために仕出しをとったり、買ってきたものを添えたり。女性の意見も聴きたいという意見があったので、女性部を作った。 ◇納屋自治会では、20年ほど前は婦人部があったが、今は解消の方向。働く世代も子どもも忙しすぎる。子ども会も解散した。特に支障はない。自治会活動の役員に女性が増えてきている。 ◇福山地区。飲み方の準備片付けなどが嫌だという意見もあったが、アンケートでは残すべきという意見があった。その後、女性部は無くしたが、何も支障はない。 ◇広瀬地区。婦人会は相当前に無くなった。地区の役員を決めるのに、なかなか決まらなくなった。地域の行事が盛り上がりにくくなった。炊き出しをしなくなり、つながりがなくなった。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

◇永水地区。山村留学や県単村づくり事業などに取り組んできたが、女性に炊き出しなどしてもらっていた。男のロマン・女の不満という言葉通りだったかも。6つある各自治会・班の婦人会から人を出してもらっていたが、今は1つ。世代の違いで、無くなるのは致し方ないと思う。現在は、自治公民館の中で好きな人たちが炊き出しなどやっている。

◇国分郡田地域。以前は婦人部あったが今はない。地域行事はみんなでやる。有志の中で女性もいる。懇親会も片付けも男女混じって、みんなでやる。

◇国分向花地区。若い人も地元で長く住む人もいる。中心になるのは自治会長、女性防災組織もある。

◇川尻自治会。女性部ある。各行事は役員全員でするので、炊き出しはしない。仕出し等をとるので、年間行事ではクリスマス会やお楽しみ会をしている。男性部を作ってほしいという声もある。新年会のみアルコール出す。準備片付けは男性、女性は買い出し。他の自治会では、味噌づくりなどして若い人に文化継承している地区もある。

◆女性部への名称変更やこれまでの方々のことを考えると、下有川地区らしい形を模索しないといけない。

意見交換での主な意見等

<自治会について>

◆自治公民館の活動について議会はどう捉えているのかという観点から、このテーマを選んだ。

過疎地域であればあるほど、行政と一体化した自治活動は必要だと思う。行政からの声かけはあるが、行政サービスのみを享受し自由参加を可とはいかがなものかと考えている。ゴミ捨ての問題、独居高齢者の見守り、地域防災計画も自治公民館にお願いがきている。助け合うことができる、顔と顔が見える関係性が必要ではないか。自治会参加の義務化で加入率改善できるのではないかと考えるがどうか。

◇ごみ収集について。自治会費8,000円で、6,000円を未加入者にも出してもらっている。ゴミステーションの掃除は加入者で。市は強化月間としているが、積極的に進めているわけではないと捉えている。

◇川尻自治会。世帯数は多いが、アパートマンションが多く、加入率はとても低い。ゴミステーションについては、ゴミ協力金をいただいている。最近、違う自治会から持ってきて捨てている事例もある。未加入者には、市役所に持って行くように声をかけている。自治防災組織の立て方は、安心安全課に相談してほしい。

◇玉利公民館。まちづくり計画委員として別組織を作り、若い方々に参加してもらおう。

◇国分隼人でもマンション在住者の中で、住んでいる地域以外の自治会に参加する事例や、多国籍交流・ラジオ体操など自治会構成メンバー以外も受け入れる活動を行う柔軟な地域も出てきている。

◇霧島地区。霧島地区は別荘を持っている方がいるが自治会がなかった。最近別荘地に住んでいる方々が自治会組織を作り、市や別荘地企業と交渉をして、加入者が増えている。個人でいた方がいいというのは、何もわからない人の意見かも。組織があることが力になる大事な組織だと思う。ただ、小さな子どもがいる時に、役員が回ってきて両立できないから脱退した事例もあるので役員選びの柔軟性は必要だ。

◇広瀬地区。加入率は56%、選挙の投票率が低いのは課題。

◇福山地区。下の方のエリアは、空き家と高齢者世帯のみ。学校もない。上の方のエリアには総合支所がある。加入率こそ高いが、若い人はみんな国分・隼人に移ってしまった。メリットの話もあるが、コミュニケーションが大切。

◆は参加者の発言 ◇は議員の発言

意見交換での主な意見等

◆公民館の建物の修繕なども大事だが、過疎化地域における将来構想や、農地などの担い手のこと、畑の担い手のことなど、自治公民館の中で話し合うべきでは？と考えている。

強制はできないが、行政サービスを提供できないことをお伝えして「参加義務」にできないのか。そういう条例はできないか。

◇市も加入率改善を目指しているが、強制することはできない。

◇参加義務については、市も模索しているが、市が自治会に協力を求めているものが増えすぎていて、サポートが追いついていないのではと考えている。自治会加入者だけでなく、市民全体に対して発信をしていくべき。

◆行政サービスの基本軸をしっかり話をしていくべきではないか。

◆入るのが当たり前なので、加入率が高いのだと思う。共働きで忙しくて役員も大変だったが、時間に余裕が出てきて、地域に馴染めたら役員をやってみようという気持ちにつながる。入ってきた時に、WELCOMEの地域づくりが大切。多いところは多いところなり、小さいところは小さいところなりのやり方があると思う。

◆この地域は加入率が高いのは、地元で育った人が多いからだ。地域行事や敬老会など、過去には盛んだった。名称も高齢者クラブに変えた。元気老人だけでも高齢者クラブで集まっている。どこにも負けない地域活動をしていると考えている。

◆独居老人も含めた自治防災組織は、自治公民館ですべき仕事だと考えている。